



1年7組のみんなと

エプロン通信員 末吉 郁子

PTA活動の一環として、月に2回、地域の小学校へ絵本の読み聞かせに通っていて、1年7組が私の担当だ。

宇宙の本を出して銀河や星雲を見せると、「これってほんもの?」(CGとかじゃない写真なのかと聞きたいらしい)と質問する子や、本の内容によつては涙をいっぱいためた目で絵本に食い入っている子もいたりする。時には絵本を置いて、インタビュースタッフを始めたりする。「飛行機にのつて沖縄をでて、どこかへ行ったことはある?」と聞くと、「とうきょう!」「たいわん!」「オランダ」(えく。すい)「どものくに!」(・・それは沖縄市だねえ)いつも行儀のいい女の子たちも思いつき手を上げて主張してくれる。

入学当初は外の階段に座り込んだまま一歩も動かない子がいたり、教室の中をうろうろ歩き回る子がいたが、それもアリか、とこちらもおかまいなしで読ませてもらっていた。今でも、自分で好きな本を出してひとり読んでいる子(まあ、いつか)や大きな声で関係のない話をする子がいて、それをふだん大人しい子が注意したりする。また、ふいに「おれのなまえ、しってる?」と不安そうに聞く子もいた。(あれ?いつも名前前で呼んでただけだ)

こんな風に子供たちの個性やある一面がみえたりして、みんなの反応にとっても興味を引かれる。

一般に「読み聞かせ」というけれど、私の場合「読み聞かせる」というよりは「お願い、絵本読むから聞いてくれる?」に近い、まず表情豊かなみんなの顔が楽しくて、子供たちの素直さ、正直さに心が温くなる。

ここに来るようになってつくづく思うのは、子供は存在自体が美しく、この場にいさせてもらえることがありがたいことだな、と。

1年7組に通えるのもあと残りわずか。「絵本を読みに来たよ」といいつつ、しっかりみんなの素敵な顔をみておこう。



茶 70 瓦葺きの宜野湾村役所

瓦葺きの宜野湾村役所

宜野湾の役所は、戦前、字宜野湾にありましたが、元の場所が普天間飛行場用地として接収されたことで、戦後しばらくは、野高内の民家が使われていました。やがて同じ野高の西門原(小字)に、米軍提供のカマボコ型のコンセットに移転しました。

しかし、この庁舎は、1949(昭和24)年7月のグロリア台風の被害を受けて、半壊しました。庁舎の復興には、18人の役所職員が3日掛りで工事をしたそうです。米軍政府は、被害を受けた市町村役所の建替えを行うこととし、建築復興事業に申請していた宜野湾村にも役所改築の認可が下りました。49年10月25日付で、米軍政府から沖縄知事宛に役所建築についての通知があり、宜野湾村を含めた1市1町19村が建築認可を受けました。

宜野湾村では、早速、役所敷地の選定を村議会で諮りました。議会で、役所を野高から宜野湾校区内への移転を要望する陳情が出されました。当時の役所が村の北端にあり、南側の住民からは距離的に不便なことから、その中間位置への移転を要望する内容でした。3度にわたって

議会で話し合われた結果、現行の野高に決まりました。

1950(昭和25)年2月末、米軍資金を受けて建築した瓦葺きの宜野湾村役所が完成しました。この役所では、1958(昭和33)年に普天間へ移転するまでの8年間、村行政が行われていました。今年2010年、この瓦葺きの村役所が建てられて60年が経ちました。元の役所跡地には、民家が建ち並んで当時の面影はありませんが、戦後の宜野湾の行政復活は、野高からスタートしたのです。



▲瓦葺きの宜野湾村役所前での記念写真 (1957年・野高)

『宜野湾市史』への問い合わせ
教育委員会文化課 ☎893-14430